

苦しかった、苦しかった、本当に苦しかった。優しくて広くて嬉しい自分の心を踏みつけにしてきたから苦しかった。肉の思いがこんなに苦しい思いだったって、肉を守り肉を誇る思いがこんなに自分をいためつけてているのかと思いました。後から後からごめん、申し訳なかったって、一番自分を見下してきたという思いが出てきました。心の闇がいてくれるから私は気付きました。心の闇が大きければ大きいほど、それを受け止めしていく自分の心の広がり温かさも感じられました。闇が私に教えてくれているその温かさを感じることができました。どんなときもどんな思いを出しても、帰っておいでと手を広げて待ってくれている思いが私の本当の意識の世界でした。田池留吉を信じていってくれ、田池留吉に思いを向けてくれ、田池留吉は優しいなあ、そうやって私に伝えてくれていました。闇は温もりに帰りたい私の本当の心の叫びでした。その叫びを出していくことが本当に肉の私ができることでした。出さなければ気付いていくこともできない、そして本当に全部を受け止めていける温かな広い心が私だったということを信じられませんでした。どこにいても何をしていても、ふと田池留吉を思うと心が広がり穏やかになり、ふつふつと嬉しい思いがこの心の中に戻ってくるそんな時間の繰り返しの中で、来世そして未来へと心を向けていけばいいんだ

なあと思います。大闇がどんどん出てきても、私は自分のこの心の広がり、温かさ、そして来世、未来へとつないでいく意識であることが信じられます。だから闇とともに歩いていけそうな気がします。